

技が輝く

宮城県大崎市鳴子温泉には、経済産業大臣指定の伝統的工芸品が二つあります。江戸時代、温泉町鳴子の木地職人たちは、お盆やお椀などを作る傍ら、子どもたちの玩具として、男の子には「独楽」を、女の子には「きぼこ（こけし）」を作っていました。お盆やお椀は現在の鳴子漆器のルーツとなり、子どもの玩具は宮城伝統こけしとして現在に伝えられています。

宮城伝統こけし

宮城県内には五系統のこけしがあり、制作技術や形態、模様などは産地ごとの風土を反映した特色もっています。中でも鳴子こけしは、御所人形のような前髪と、菊や牡丹で彩られた胴模様が華やかで、どっしりと安定感のある全体像が特徴です。また、頭を回すとキイキイ音が鳴ることも知られており、ガタコと呼ばれる突起を用いて首を胴にはめ込む独特の接合方法が、ほかの系統にはない特色となっています。

鳴子漆器

一方の鳴子漆器は、こけしよりも更に起源が古く、十七世紀半ばには既に創始されていたと伝えられています。岩出山城主の伊達弾正が、地



こけしろくろ挽きの様子



鳴子こけしの絵付け

元の漆器職人を京都へ修業に行かせて振興を図ったとされ、文献『鳴子村風土記書出』には、塗物が鳴子の主要産物の一つであったことが記録されています。木目の美しさをそのまま生かした「木地呂塗」や、独特の流線模様を描く「竜文塗」などが知られており、そのしつとりとした美しさに加え、幾重もの重ね塗りにより長期の使用にも耐え得る丈夫さを兼ね備えています。



鳴子漆器

二つの伝統を融合させた新ブランドとして今、温泉町鳴子の発展とともに受け継がれてきた二つの技術が、時を経て新ブランド「NARUKO」として新たな価値を生み出しています。こけしの玩具性と漆器の多彩な塗立技術が反映された新商品は、現代の生活に新鮮な彩りを与えるものとして、国内外から関心が寄せられています。その魅力を更にくのくに伝えるため、これからも鳴子の挑戦は続きます。



NARUKO コーヒーテーブル

宮城県

宮城伝統こけし 鳴子漆器

お問い合わせ

宮城県経済商工観光部新産業振興課
TEL 〇二二―二二一―二七二三